

令和3年度第5回 食を通じた地域のプロモーション・交流事業を 鳥取県で開催しました！

クレアは株式会社 ABC Cooking Studio（以下、ABC 社）と連携し、地域の「食」をテーマとした体験等を SNS や各種メディアで発信してもらうことで、地方自治体の海外販路開拓やインバウンド促進につなげることを目的とした「食を通じた地域のプロモーション・交流事業」を実施しています。これまでは、海外の ABC 社のスタジオから生徒を招へいして実施していましたが、2021 年度は国内外の新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、日本国内在住でアジア各国に訴求力のある外国人インフルエンサーを招へいして行いました。

本年度第5回目となるツアーは、開催自治体を鳥取県とし、中国で人気の日本在住インフルエンサー、付 玉蒙（フ ユモン）さん（以下、付さん）を招き、2021年12月14日（火）～17日（金）の日程で実施しました。付さんは中国の全国放送番組の元アナウンサーで、現在は日本のテレビ番組でも活躍されています。中国で最も普及している SNS である Weibo では132.8万人（2022年3月）のフォロワーを持つインフルエンサーとして、ツアー後には鳥取県の食材や見どころを発信していただきました。また、ABC 社の YouTube アカウントにおいて、今回制作した動画も公開しておりますので、ぜひご視聴ください。

- ・ロング版（9分55秒）【<https://youtu.be/TJRq6UgsyB4>】
- ・ショート版（1分）【<https://youtu.be/P8N0hnpI2Ic>】

ツアーの詳細は、以下のとおりです。

【ツアー詳細】

1日目

<あじろカフェなだばた>

「あじろカフェなだばた」は網代地区の女性部が運営している家庭的な雰囲気のお食事処です。看板メニューの「なだばた御前」を頂き、地元で獲れた旬の魚を使った手料理を楽しみました。この日は網代地区名産の赤ガレイやハタハタがおかずと並びました。



（写真提供：STUDIO 男爵）

<城原海岸>

城原海岸はユネスコ世界ジオパークに認定されており、複雑に入り組んだ海岸地形を眺めながら波打ち際を散策することができます。海水の透明度も高いのが特徴で、訪れた12月は海岸に打ち付ける波も比較的穏やかで、冬の山陰地方には珍しい好天日に風景を楽しむことができました。中国の人にとっては城原海岸のように新鮮な空気を吸える自然スポットは魅力的な観光コンテンツだそうで、付さんも大自然を感じながらの散策を満喫していました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館>

「山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館」では城原海岸やその一帯の山陰海岸ジオパークについて学ぶことができます。日本語と英語で書かれた大きな展示パネルや3Dシアター、3D地球儀（タッチパネルの地球儀で、世界の地層や地形等について知ることができる）等が設置されており、訪れた人々が様々なコンテンツを通じて学ぶことができる環境が整っています。付さんは職員の方から丁寧な説明を受けながら、時折、体験型の資料にも触れる等して山陰海岸の成り立ちや生き物について学びました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<鳥取砂丘>

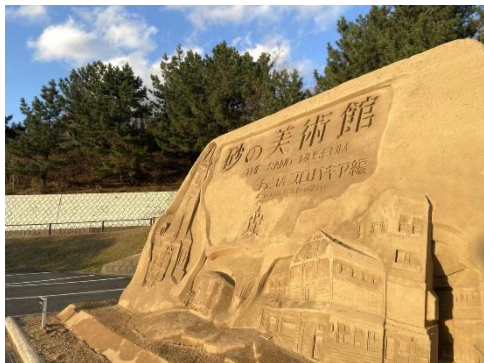
言わずと知れた鳥取県の名所、鳥取砂丘。もともと十分に写真映えする好ロケーションですが、訪問時はちょうど日没前の時間帯で西日が差し込み、何とも言えない美しい風景が広がっていました。「馬の背」と呼ばれる砂丘列に登ると、眼下に日本海を見渡すことができ、砂丘とのコントラストが映えます。鳥取県の雄大な自然に囲まれ、癒しのひとときを過ごしました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<鳥取砂丘 砂の美術館>

「鳥取砂丘 砂の美術館」には、「砂を通して世界を旅する」ことをコンセプトに、毎年世界各国から一流の砂像彫刻家たちが集まり製作された世界最高レベルの砂像が展示されています。訪問時はチェコ・スロバキアにちなんだ数々の砂像を見学しました。作品はどれも砂と水だけで作られており、展示期間が終わればどれもみな跡形もない砂粒に戻されるのだそうです。力強く壮大な作品たちの中にもそんな儚ささえ感じられるのが、ここ砂の美術館を訪れる人を魅了する一つのポイントではないでしょうか。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<温泉旅館 丸茂>

1日目は鳥取市内にある「温泉旅館丸茂」に宿泊しました。源泉掛け流しの温泉が楽しめるこちらの宿は地元の味にこだわった食事にも自慢とのことで、夕食にはノドグロや王秋梨等の鳥取県産食材を使った料理を頂きました。おかずは大小合わせて12品ほどあり、どれも丁寧な作りで繊細な味わいでした。



(写真提供：STUDIO 男爵)

2日目

<大山まきばみるくの里>

「大山まきばみるくの里」は大山乳業農業協同組合が運営する直売所です。大山山麓に位置しているので、敷地内からは大山を望む眺望スポットとしても人気です。直売所自体は冬期休業中だったので、大山の風景撮影のために訪問しました。この日は朝から小雨やあられが降り続いていましたが、ほんの束の間、晴れ間がのぞき、大山の美しい風景を写真に収めることができました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<湯梨浜振興合同会社（県魚ヒラメ養殖場）>

鳥取県の県魚ヒラメ。「湯梨浜振興合同会社」では人工ふ化して育った、生まれも育ちも湯梨浜町のヒラメを養殖しています。ヒラメ養殖について養殖場の方から説明いただいた後、えさやり体験をさせてもらいました。それまではジッと生け簀の底にいたヒラメたちが、えさに勢いよく食いつき水しぶきを上げる様子に、付さんは少し驚きながらも貴重なヒラメえさやり体験を楽しんでいました。



（写真提供：STUDIO 男爵）

<道の駅 はわい>

「道の駅 はわい」では、湯梨浜町産のヒラメを使った「元気漬け丼」（ヒラメ丼）を頂きました。丼にはヒラメの刺身が載っており、サイドディッシュのフライにもヒラメが使われています。高級魚のヒラメをフライで楽しめるのも、ご当地ならではの楽しみです。中国では食べる機会がめったにないというヒラメの味を付さんも楽しんでいました。



（写真提供：STUDIO 男爵）

<株式会社北栄ドリーム農場>

「株式会社北栄ドリーム農場」では鳥取県が育成した「とっておき」という品種のいちごの収穫体験を行いました。「とっておき」はすっきりとした甘さで香りが非常に良く、人生初のいちご収穫体験となった付さんも大変気に入った様子でした。



（写真提供：STUDIO 男爵）

掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

<青山剛昌ふるさと館>

「名探偵コナン」の作者、青山剛昌先生の出身地である北栄町には「青山剛昌ふるさと館」があります。こちらでは青山先生の生い立ちについて知ることのできる展示コーナーや、ゲームや写真撮影ができる体験コーナーがあります。どの展示物や体験コンテンツも多言語化対応されており、付さんも様々なコンテンツを母語の中国語・簡体字で楽しんでいました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<三朝温泉 万翠楼>

2日目は「三朝温泉 万翠楼」に泊まりました。こちらでは夕食と付さんの部屋をメインに撮影しました。付さんの部屋は内風呂付きの優雅な和洋室で、夕食には鳥取県の冬の食材の王様、松葉がにをふんだんに使ったかに懷石料理が振る舞われました。焼きがに、かにしゃぶ、刺身等様々な食べ方で松葉がにを堪能しました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

3日目

<かじかの湯（足湯）>

三朝温泉郷の三徳川に架かるかじか橋の中央には「かじかの湯」という足湯があります。名前の由来は三朝地区のシンボルであるカジカガエルだそうで、晴れた初夏の夜には実際にカジカガエルの鳴き声を聞きながら足湯を楽しめるそうです。この日は早朝の撮影となり、朝の冷たい空気に触れて湯気が立ち昇る様子や橋下を流れる三徳川を眺めながら足湯に浸かる様子を撮影しました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<東郷池・布袋の湯（足湯）>

源泉が湧き出る「東郷池」の畔には「布袋の湯」（足湯）と温泉卵作りの設備があります。布袋の湯は憩いの場として管理されており、この日も到着した時は地元の方が清掃作業をされていました。温泉卵作りの設備では自ら持参した食材を温めることができます。温泉卵を作っている間に布袋の湯に浸かり、30分弱で温泉卵が出来ました。付さんには出来たてアツアツの温泉卵を召し上がっていただきました。



（写真提供：STUDIO 男爵）

<大山乳業農業協同組合>

「大山乳業農業協同組合（以下、大山乳業農協）」の直売所を見学、撮影しました。敷地内には工場と直売所が併設されており、工場には鳥取県内すべての酪農家から毎日新鮮な生乳が運ばれてくるそうです。コロナ禍前は工場見学の受け入れもしていたそうですが、訪問時は休止中でした。店内には目玉商品「白バラ牛乳」の他、各種商品が陳列され、マスコットキャラクター「カウイー」のグッズコーナーもありました。カウイーと白バラ牛乳の商品をテーブルの上に並べ、付さんが商品をPRする様子を撮影しました。



（写真提供：STUDIO 男爵）

<有限会社山本おたふく堂>

「有限会社山本おたふく堂」は明治元年から154年続く老舗の和菓子屋で、創業当時からある「ふろしきまんじゅう」が定番商品です。店内に設けられた飲食スペースで、出来立てのふろしきまんじゅうを頂きました。甘すぎず、素朴な味わいでコーヒーや紅茶にもよく合うことから、これに合うブレンドコーヒーも開発し、提供しているのだそうです。



（写真提供：STUDIO 男爵）

掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

<お食事処 香味徳 赤碓店>

「お食事処 香味徳」では、鳥取県中部のご当地グルメ「牛骨ラーメン」を頂きました。牛骨から丁寧に取っただしが効いていて、味わい深くもすっきりとした後味です。人気店だけあって味はもちろんのこと、並盛600円というコストパフォーマンスの良さも魅力的です。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<植田正治写真美術館>

世界的写真家、植田正治氏の功績を称え造られた「植田正治写真美術館」。設計は建築家・高松伸氏によるもので、外観も写真映えのするスポットとして知られています。訪問した日は休館時期に当たるため展示はありませんでしたが、大山や美術館の外観撮影のために特別に対応いただきました。館内からガラス窓越しに水面に映る「逆さ大山」はあいにくの天気によりはっきりとは見えませんが、外観の撮影を主に行いました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<久米桜麦酒株式会社>

大山の麓で地ビール「大山Gビール」の製造・販売を行う「久米桜麦酒株式会社」の工場長に案内いただき、大山Gビールの製造工程や生産設備等を見学しました。見学後は工場内のレストランにて試飲体験も行いました。大山Gビールはスーパーで見かける主要銘柄のビールと異なった醸造所独自の豊かな風味と味わいがあります。例えばこの醸造所の庭で栽培したホップを加えたものはフレッシュな香りで口に含むと濃厚です。工場内のタンクから搾りたてのビールを飲んだ付さんもその豊かな香りと味わいに驚きを隠せない様子でした。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<とっとり花回廊>

「とっとり花回廊」は大山を望む日本最大級のフラワーパークで、四季折々の植物を楽しむことができます。また、一周1kmもある回廊は屋根付きで、いくつかの展示室にも直結しているため天気の心配なく訪れることができます。回廊の内側のエリアにはガラス張りの巨大な温室ドームやテーマの異なる庭園が整備されています。冬季の夕刻から楽しめるイルミネーションと蘭やユリ、ピオラ等の撮影を中心に行いました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<天然温泉境港夕風の湯 御宿野乃>

3日目は境港市内にある「天然温泉境港夕風の湯 御宿野乃」に宿泊しました。こちらの宿はビュッフェスタイルで頂く朝食が人気です。境港特産の紅ズワイガニやいくら、エビ等海の幸を好きなだけ盛り付ければセルフ海鮮丼を作ることができます。朝ご飯としては贅沢過ぎる豪華海鮮丼を堪能しました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

4日目

<鳥取県営境港水産物地方卸売市場>

全国一の紅ズワイガニの水揚げ量を誇る境漁港で、紅ズワイガニ競りの見学をしました。当日は紅ズワイガニ漁を行う大きな漁船が水揚げのため停泊しており、紅ズワイガニの水揚げや競りで活気付く市場内の様子を見学できました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<千代むすび酒造株式会社>

境港にある日本酒醸造の蔵元「千代むすび酒造株式会社」では、蔵人たちが酒蔵で酒米を蒸す作業や蒸し上がった酒米を酵母で発酵させる作業を見学させてもらうとともに、一部体験させていただきました。その後は酒蔵に併設された試飲スペースで人気銘柄「千代むすび 純米大吟醸 強力40」や発泡性のスパークリング清酒「SORAH」を試飲しました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<水木しげる記念館>

境港市は日本の国民的漫画「ゲゲゲの鬼太郎」の作者である水木しげる先生の出身地です。境港駅前からは「水木しげるロード」が続いており、道端には水木先生の作品に登場する妖怪たちのブロンズ像が並んでいます。

水木しげる記念館では、水木先生の生い立ちに関する展示や「ゲゲゲの鬼太郎」の原画、妖怪に関する貴重なコレクションの数々を鑑賞しました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

<味処 美佐>

「味処 美佐」では松葉がにと紅ズワイガニの食べ比べコースを頂きました。店主によると境港の料理屋さんでも活きた紅ズワイガニを扱うお店はそう多くないとのこと、貴重な活き松葉がにと・活き紅ズワイガニを食事前にいただきました。その後、料理毎に食べやすい大きさにカットされた2種類のカニの身やかにみそを、かにすき、カニしゃぶ等様々な食べ方で頂き堪能しました。



(写真提供：STUDIO 男爵)

掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

＜境港水産物直売センター＞

「境港水産物直売センター」は、境港に水揚げされた魚介類を扱う鮮魚店や飲食店等が入っています。そのうちの1つ「山陰旋網協同組合」の方々に対応いただき、店頭には並ぶ旬の紅ズワイガニや松葉がに、親がに等について紹介してもらいました。また、こちらのセンターにはハタハタ、ノドグロ、エテカレイ等の塩干品やちくわ等、日持ちする水産加工品も並んでおり、お土産を購入するにはぴったりの場所です。



(写真提供：STUDIO 男爵)

【ツアー行程】

1日目 12月14日（火）

- ・あじろカフェなだばた（旬の魚料理）
- ・城原海岸（風景撮影）
- ・山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館（山陰海岸ジオパークの学習・体験）
- ・鳥取砂丘（風景撮影）
- ・鳥取砂丘 砂の美術館（館内見学）
- ・温泉旅館丸茂（宿泊）

2日目 12月15日（水）

- ・大山まきばみるくの里（大山の風景撮影）
- ・湯梨浜振興合同会社（県魚ヒラメ養殖見学）
- ・道の駅はわい（元気漬け井（ヒラメ井））
- ・株式会社北栄ドリーム農場（県産いちご「とっておき」収穫体験）
- ・青山剛昌ふるさと館（館内見学）
- ・三朝温泉万翠楼（宿泊）

3日目 12月16日（木）

- ・かじかの湯（足湯体験）
- ・東郷池・布袋の湯（温泉卵作り・足湯体験）
- ・大山乳業農業協同組合（直売所見学）
- ・有限会社山本おたふく堂（試食）
- ・お食事処 香味徳 赤碕店（牛骨ラーメン）
- ・植田正治写真美術館（見学、外観撮影）
- ・久米桜麦酒株式会社（工場見学、試飲）
- ・とっとり花回廊（イルミネーション等見学）
- ・天然温泉境港夕風の湯 御宿野乃（宿泊）

4日目 12月17日（金）

- ・鳥取県営境港水産物地方卸売市場（紅ズワイガニ競り見学）
- ・千代むすび酒造株式会社（酒蔵見学、試飲）
- ・水木しげる記念館（見学）
- ・味処 美佐（松葉がに・紅ズワイガニ食べ比べ）
- ・境港水産物直売センター（見学）